

かつての石狩油田（昭和初期の絵はがき）



模ながら採油が行われていました。閉山されても油井は残っていました。現在でも地面に石油が湧き出ている様子を見ることもできます。

江戸時代末期のことでした。石狩役所の役人が海に油が浮いているのを見つけて陸地を調査し、厚田油田や石狩市五ノ沢／＼八ノ沢の「石狩油田」が発見されたのです。石狩油田は明治36年（1903年）から昭和35年（1960年）まで操業し、当時は北海道の産油量の大半を占めるほどでした。

石油は、太古のプランクトンの死骸などが海底に大量に降り積もり、長い年月の間に地下の熱や圧力にさらされて変化したものです。だから化石燃料というのです。地下深く潜む石油を見つける

72・6123

■文化財・博物館開設準備室
（志賀健司）

石狩の石油王をめざせ!?

皆さんは今、ストーブのたかいた暖かい部屋でこれを読んでいるかもしれません。ストーブの燃料は石油でしょうか。今日の日本で使われる石油はほぼ100%、海外からの輸入に頼っています。しかし明治後半から昭和前半にかけて、石狩でもかなりの量の石油が採られていたのです。

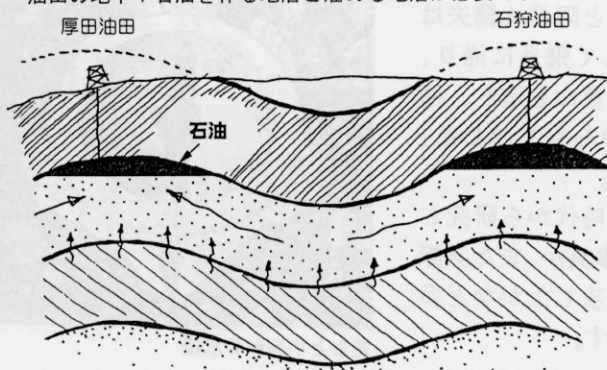
石狩北部には2つの油田がありました



のは簡単ではありません。第一の条件は、石油を産み出すようなプランクトンの化石をたくさん含む地層がそばにあることです。しかしそれだけでは油田は見つかりません。石油は液体なので、地中の岩石の隙間を通して、どんどん移動していくのです。

また地下水より

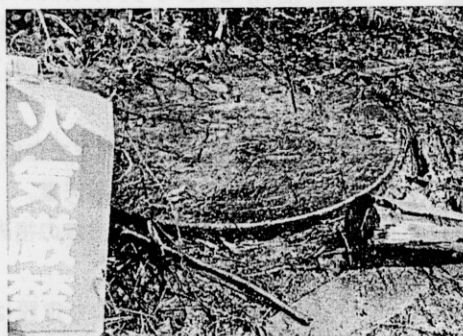
油田の地下：石油を作る地層と溜める地層が必要です



←隙間のない地層が浮かんできた石油を集めます

←石油は砂岩のような隙間の多い地層の中で移動します

←プランクトンの化石を大量に含む地層から石油が作られます



今でも石油が湧いている厚田油田